科目ナンバリング	G-LAS13 80022 LB90						
授業科目名 <英訳>	災害時の保健医療福祉における情報管理・活用 Information Management in Health, Medicine and Welfare During Disaster			担当者所属 職名・氏名	医学研究科　教授　　久保　達彦 医学研究科　教授　　今中　雄一		
群	大学院横断教育科目群			分野(分類)	健康・医療系	使用言語	日本語及び英語
旧群		単位数	1単位	時間数	15時間	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・ 通年集中	曜時限	集中 8/21・23	配当学年	大学院生	対象学生	全学向

（医学研究科の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

迅速に適切に効率よく、被災者や被災地域の支援ニーズに応えていくためには、データ・情報が必要である。
被災地で活動する全ての災害医療チームにとって、情報の把握、共有、活用は極めて重要である。健康状態や医療等の情報が一元的に管理され、即時に分析・可視化されると、被災傷病者や健康状態悪化リスクを有する人々に対してより早くより適切に、必要な対応・医療を提供できるようになっていく。それぞれ状況の異なる多くの避難所の支援にも、心身の大きな負担がかかっている支援にあたる人々の支援にも、それらの状況を把握するためのデータ・情報が求められている。
データ・情報を収集し活用する仕組みづくりには様々な力が求められるが、我が国では、これらの開発と社会実装の両面で、さらに災害対応に貢献する科学的知見の創出において世界をリードしている。国内のみならず、国際社会への適用の事例も蓄積されてきている。
当科目では、国内および国際社会において、災害時における、情報の把握、共有、活用と、それらに関する制度や仕組みづくり、多領域の調整と社会実装の実現について学ぶ。

日時:2026年8/21(金)～8/23(土)の13コマ集中講義のうちの7コマ
★「災害時の避難生活支援」講義と両方の受講必須。
★「健康危機管理セミナー」も受講することが望ましい。

[到達目標]

災害時保健医療福祉の情報管理・活用に係わる、考え方、施策・政策、様々な知見、課題、実践、解決手段、研究開発等について、現状を説明できるようになる。
・J-Speedの内容と活用方法について説明できる
・WHOのMinimum Data Setの経緯・内容と活用方法について説明できる
・災害に関連してデータ・情報を収集する仕組みとその仕組みづくりに関する諸課題について説明できる
・災害時のデータ・情報の収集と活用に関する様々なハードルとその対応策について説明でき議論することができる
・災害対応・情報収集活用の多分野連携の重要性とその連携実施に係る課題について説明でき議論議論することができる

[授業計画と内容]

多職種・多分野の参加者によるインタラクティヴセッション：集中ワークショップ

・対面参加を主とする
（遠隔者など都合の合わない人はオンライン参加も可とするが、学習効果上は対面参加が望ましい）

担当：久保達彦 教授

災害時の保健医療福祉における情報管理・活用(2)へ続く↓↓↓

（ヘルスセキュリティセンター・健康危機管理多分野連携学分
場所：G棟セミナー室C/D
災害時の情報管理・活用
１．災害時の保健医療福祉情報の共有・分析・管理
２．災害時の保健医療の情報管理
３．災害時の介護保険施設等の情報管理
４．災害支援者の健康管理
５．国際災害医療チーム、国際緊急援助JDR：支援・受援と情報活用
６．国内・国際場面における健康危機管理の組織体制と情報
７．災害医療分野へのAIの適応
８．グループレポート成果発表
　災害診療記録、J-SPEED（災害時診療概況報告システム）の開発・導入の事例を通じて、個票の管理・集計・分析における制度的課題、実用上の課題などを学習し、J-SPEEDや自然災害、国内の事例に留まらない、今後の平時・危機時のサーベイランスの仕組みのあり方について討議する。
　災害医療においては、災害時に診療した個人のカルテの作成と、それらを総括したサーベイランスの双方が必要である。個人のカルテについては適切な個人情報保護、医療者間での情報共有が必要であり、法的な診療記録との兼ね合いなどの課題が存在している。サーベイランスにおいては、現場での統計情報の入力の手間や、得られた情報の管理責任、誰が分析を行うのか、誰がどうその情報を共有公開していくのかなどの課題が存在している。
　災害医療における実際の事例や、COVID-19における感染症サーベイランスに関して、講師・受講生の医療機関・行政機関での経験などの知見を共有することで、互いの立場から見える「必要な情報」の違いや負担感について学び、どのように情報収集を行い、どのように保管し、どのように活用していくかを模索する。
上記の順番と予定は暫定的なものです。初回に予定を説明します。
★8/21～8/23 ワークショップ
　8/21(金)1・2限 スタートアップワークショップ
　8/23(日)1～3限「災害時の保健医療福祉における情報管理・活用」ワークショップ
　　4・5限 受講生各人のレポート発表と議論（レポート課題は4月中に提示します)

[履修要件]

・医学系のみならず、学内全ての院生に開かれている。医療や危機管理についての特別な知識は必要ない。
・健康危機管理、災害医療のマネジメント側面に、関心を持つ者。
・当研修の趣旨を理解し、自学自習力と協調性をもって積極的に演習に参加できる者

[成績評価の方法・観点]

主体的な参加（50 %）および最終レポート(50%)で評価する
【素点(100点満点)評価】

[教科書]

CHS教員で共同分担著 『健康危機への備えと対応 ―パンデミックと能登半島地震を踏まえた社会とシステムのあり方』（医学のあゆみ 2025）

[参考書等]

（参考書）
（参考書）
J-SPEED情報提供サイトhttps://www.j-speed.org
災害時保健医療福祉活動支援システム（D24H）による災害時の支援
https://www.bosaitech-pf.go.jp/doc/20240620_9.pdf
災

災害時の保健医療福祉における情報管理・活用(3)へ続く↓↓↓

災害時の保健医療福祉における情報管理・活用(3)

[授業外学修（予習・復習）等]

小グループで問う課題についてレポートを作成し、発表・議論の準備を行う。

[その他（オフィスアワー等）]

※オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。
京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可
問い合わせ等は、
CHS事務局 chs-office@umin.ac.jp へご連絡ください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。

[主要授業科目（学部・学科名）]